

現代マタニティの からだ意識

～2002年マタニティの実像～

2003年11月



WACOAL CORP.
CORPORATE COMMUNICATION OFFICE

ワコール通信 No. 331
2003. 11. 17 発行

Wacoal

Information

美しくなった現代マタニティ

ワコール マタニティの思想

「女性に美しくなって貰う事によって広く社会に寄与する」という企業理念に基づき、ワコールは全ての女性一人ひとりの「心身の個性美表現」をトータルにサポートする「ボディデザインビジネス」を事業展開しています。そのひとつとして、ワコールマタニティでは、「産前から産後にかけて美しく生まれ変わる」ことを目指して、マタニティ期の女性のこころとからだをサポートしています。そのために、マタニティ期の女性の体型・意識の変化をベースに、変わりつつある「現代のマタニティ」の実状を捉えたワコール人間科学研究所のデータを活用し、よりよいマタニティ専用インナーを開発しています。

集団計測の背景・目的

ワコールが1992年に発表した『平成新人類』の体型変化でも明らかになったように、女性の体型や意識は大きく変わってきています。また2000年に発表した「スパイラルエイジング」では、出産そのものがスパイラルポイント(=エイジングの曲がり角)であることが導き出され、からだのエイジングと妊娠・出産との関係性が重視されています。そして2003年春現代マタニティの体型変化を発表し、続いて今回、からだ意識を調査、発表。体型、意識の両面から現代マタニティの実態をより明らかにし、一人ひとりのお客様に満足していただける、ワコールの商品開発に役立てていくことを目的としています。

調査概要

■実施：株式会社ワコール 人間科学研究所

■実施日：2002年10月

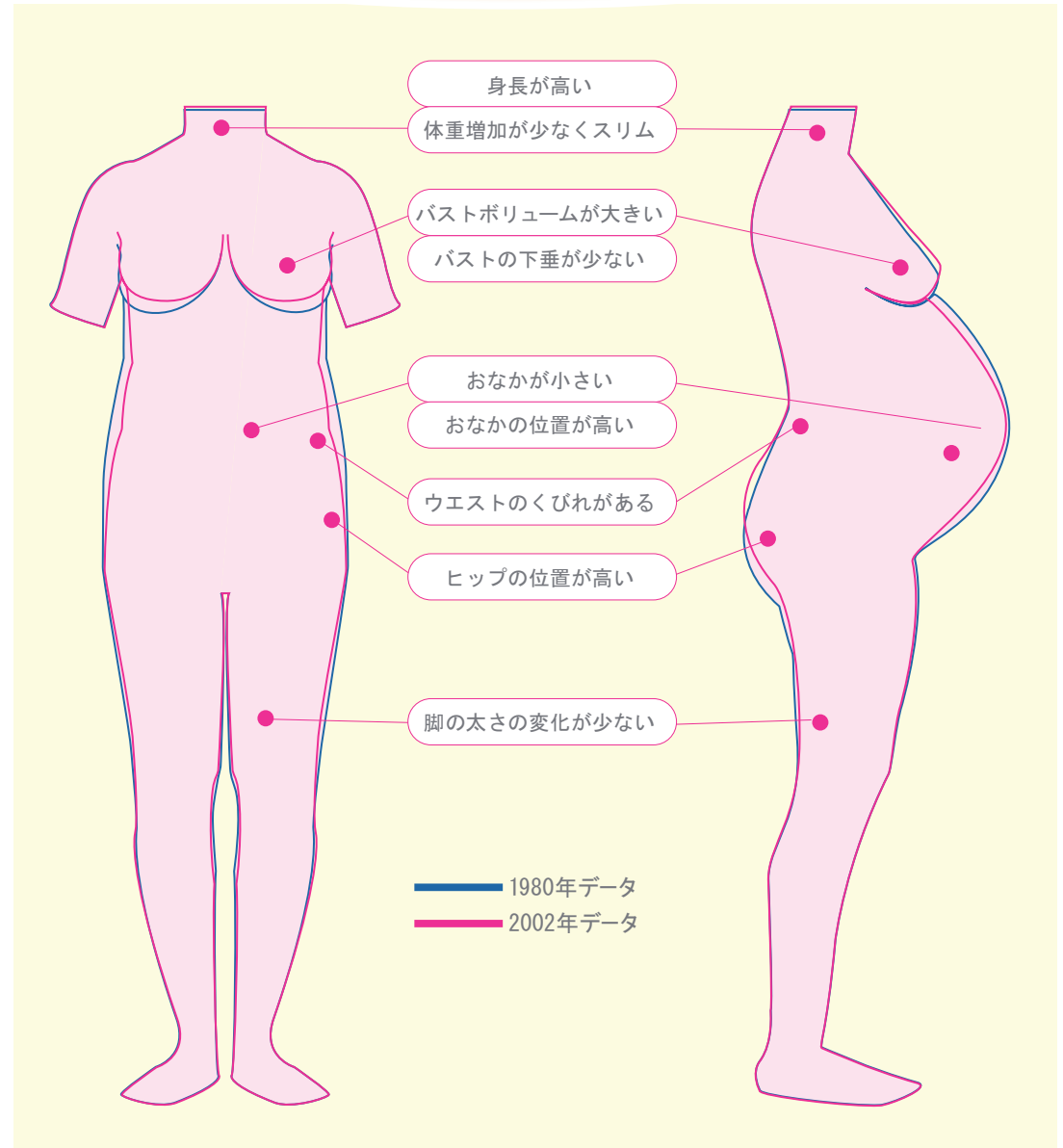
■使用データ：

マタニティ	1980年データ	—985人(平均年齢 28歳)
	2002年データ	—474人(平均年齢 30歳)

状態	産前								産後		
	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月
1980年調査数(人)	51	92	97	99	105	148	177	216	—	—	—
2002年調査数(人)	6	29	49	61	59	66	56	56	28	33	31

現代マタニティと20年前の体型比較結果

～スリムでバストの大きい『美しくなった現代マタニティ』～

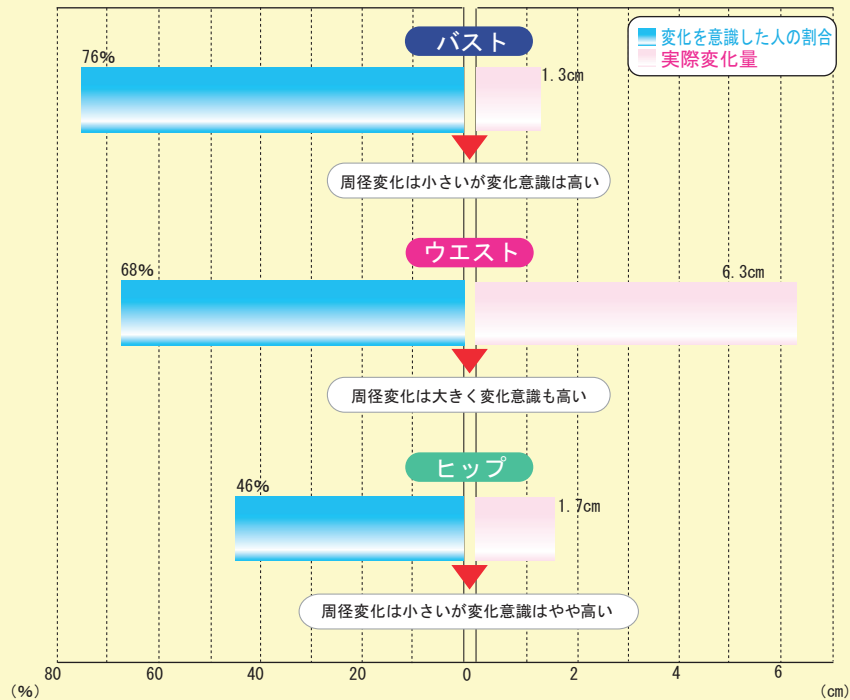


産前のからだ意識のポイント

妊娠によっておなかが大きくなっていくことは、知識として認識しているがそれ以外にバストやウエストの変化も、実感している。

特にバストとヒップは、数値に表れない変化を認識している。

●妊娠3~4ヶ月のからだ意識と実寸変化●



●からだ変化意識の内容●

妊娠3~4ヶ月

- バスト：大きくなってきた、張ってきた
乳頭・乳輪が大きくなり、黒くなってきた
- ウエスト：肉がついてきた
- ヒップ：肉がついてきた
四角くなってきた

—変化の感じ方— 「なんとなく……」
「少しずつ……」

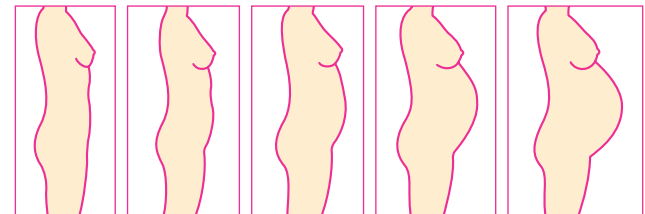
妊娠8~10ヶ月

- バスト：垂れた、下がった
横に広がった
- ウエスト：くびれが無くなってきた
- ヒップ：大きくなった
垂れた、下がった

—変化の感じ方— 「想像以上に……」
「ここまで……とは」

体型の変化

妊娠前 妊娠3ヵ月 妊娠5ヵ月 妊娠8ヵ月 妊娠10ヵ月



産前のからだ意識のポイント

妊娠3~4ヶ月の早い時点で、
おなかに次いでバストの変化を強く意識しています。

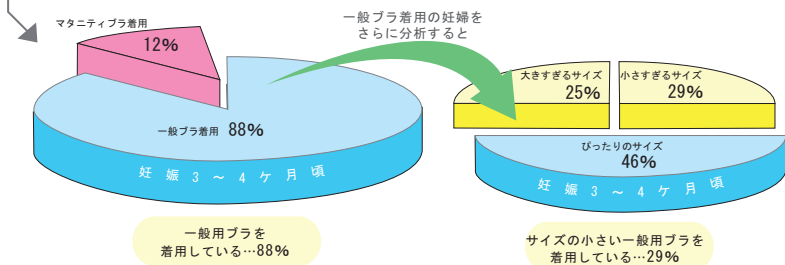
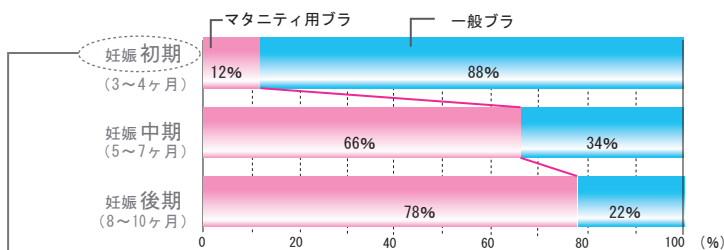
にも関わらず

**90%近くのマタニティが
マタニティ用ブラに替えていません。**

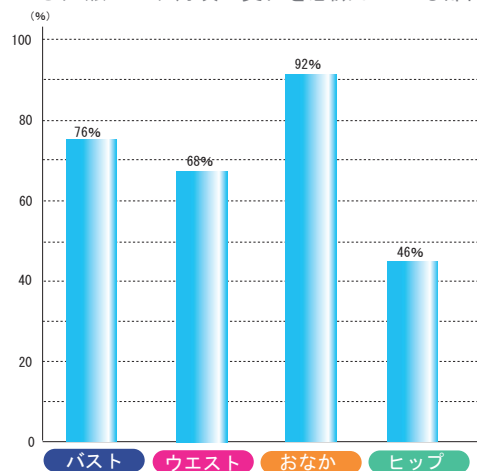
その後、妊娠月数が増えるにつれて、
マタニティ専用ブラの着用率が高まり、妊娠後期には、
約80%のマタニティがマタニティ用ブラを着用しています。

下着実態は！

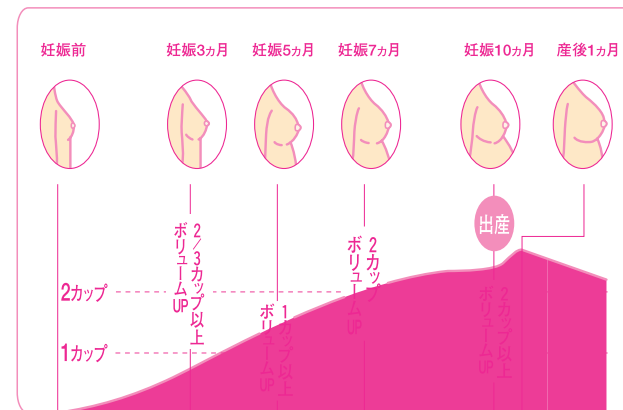
●妊娠中のマタニティ用ブラ着用率●



●妊娠3~4ヶ月頃に変化を意識している部位●



●バストの変化●



～妊娠中のバスト変化について～

妊娠中は、血中ホルモン量や乳房部の血流量が増え、
乳腺が発達してきます。

乳房内の乳腺が発達するため、乳房自体のボリュームが大きくなります。
そのため、小さいブラで乳房を圧迫することはよくありません。

乳房をやさしく支えると、皮膚や乳房内部の靭帯に過度の負担が
かからなくなって、乳房自体の下垂を防ぐ効果もあります。

元産婦人科医 京都大学
星野一正 名誉教授



産後
1~6ヶ月
頃

体型を元に戻したい願望は強いが
戻っていないことに気づくのは、産後6ヶ月以降。

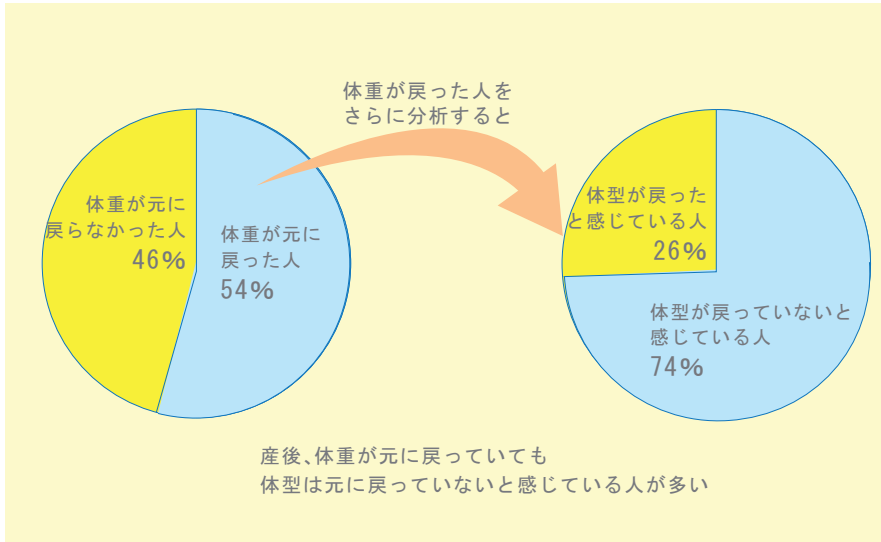
産後、美しい体型に戻りたいマタニティ

女性が「美」に対して抱く意識の中でも、体型に関するものが非常に強く、それがマタニティの産後の体型意識にも影響している。今回の調査によると、マタニティ全員が「体型を妊娠前に戻したい」と答えている。

しかし、実際は

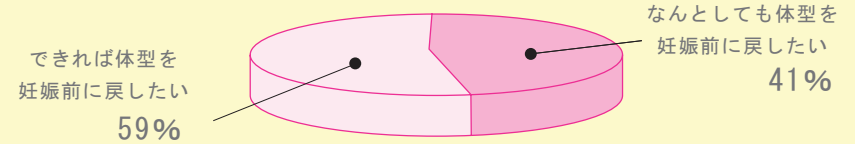
出産後、体重は戻っても体型は元に戻らない人が多く、
それに気づくのは産後6ヶ月以降。

■産後1~6ヶ月における体重・体型戻りの実態



■体型を戻すことへの意識

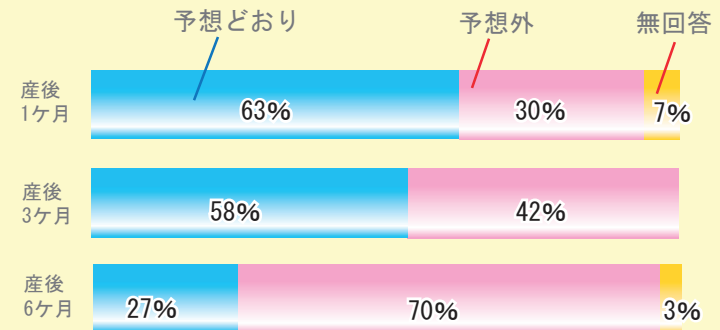
体型を妊娠前に戻したい 100%



■産後のからだ意識

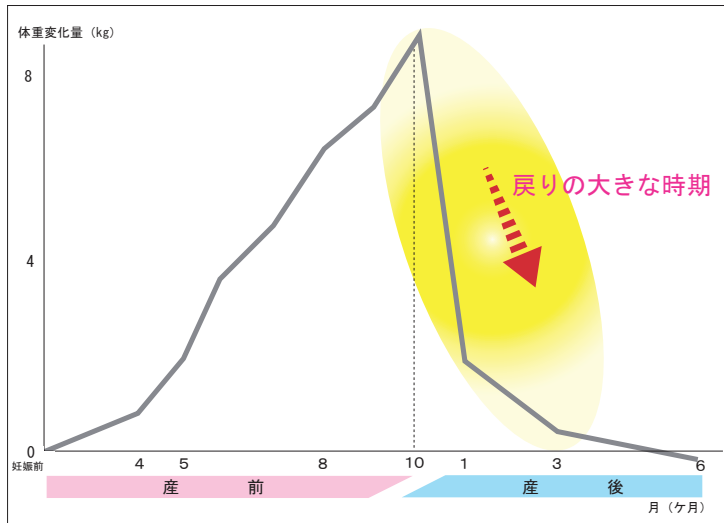
- バスト：垂れた、下がった、張りが無くなった、やわらかくなった
左右の大きさが違う、横に広がった
- ウエスト：たるんだ、ひと周り大きくなった、横側が変わった
- おなか：たるんだ、ぶよぶよになった、大きくなった、肉がついた

■産後の体型の戻りに対する実感



産後すぐの段階では、半数以上が体型の戻り方を予想どおりだと感じているが、時がたつにつれて、予想外だと感じる比率が高まっていき、産後6ヶ月頃では、70%近くが戻り具合を予想外だと感じている。

■産前～産後にかけての体重変化



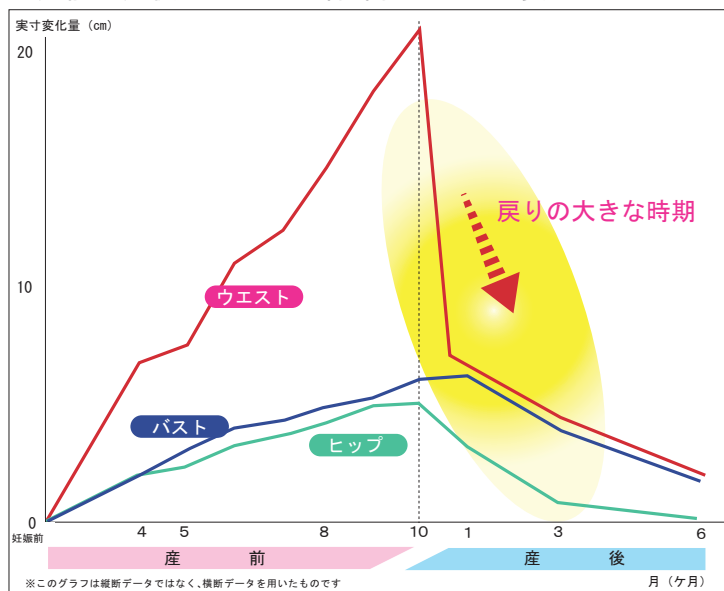
体型は産後3ヶ月までに急激に戻り
産後6ヶ月ごろには落ち着いてしまう

ワコール調査データ(左グラフ)でも分かるように、体重、各部位のサイズとも、出産直後から産後3ヶ月までの間に、急激に戻っている。この3ヶ月が体型を戻すベストタイミングであり、この時期を逃すと、体型戻りの変化は緩やかになり、産後6ヶ月頃になると、ほぼ落ち着いてしまう。

ところが

多くのマタニティが体型が元に戻っていないことに気づくのは、
体型の戻りが落ち着く産後6ヶ月以降。

■産前～産後にかけての各部位のサイズ変化



産後の回復について

妊娠すると体内のホルモン環境が徐々に変わっていき、おなかの赤ちゃんの成長につれて子宮および胎盤などは大きくなり、骨盤の柔軟性も増していきます。

このように、大きくなった子宮や柔軟性を増した骨盤の靭帯や筋肉などは出産後、自然に元のかたちと固さに戻り始めます。

これを産後の回復過程と呼びます。

この変化は特に、出産直後から産後3ヶ月にかけて著しくなりますので、この時期に産後用インナーをうまく活用すれば、妊娠前の美しいプロポーションを取り戻すことも夢ではありません。

現代マタニティのからだ意識まとめ

現代マタニティは自分のからだ、特に体型を美しく保ちたい願望が強い。それは、妊娠、出産というそれぞれの時期において全身はもちろんのこと、バスト・ヒップと、それぞれの部位の体型変化をしっかり認識していることからもうかがえる。

妊娠初期

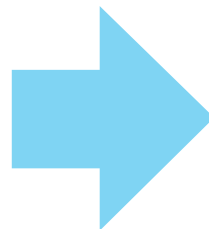
妊娠による体型変化については、妊娠初期で敏感に意識し始めるにも関わらず、マタニティ用ブラを着用し始めるのは、半数以上が妊娠中期以降であり、変化を意識していながら、妊娠前のブラをそのまま着用しているマタニティが多いことがわかった。

妊娠後期

知識として体型が変化することは知っていたが、実感として、その変化の大きさに驚くマタニティが多い。

産後の意識

産後、現代マタニティは「体型を元に戻したい」という願望が強いが、現実には、70%以上の女性が、6ヶ月経っても体型が戻ってこない現実に「予想外だった」と感じている。



産後の体型変化を見ると、出産後3ヶ月までは急激に元に戻っているが、それ以降は戻りが少なくなる。

体型を元に戻すには、この出産後3ヶ月がベストタイミングだと言える。